

活動報告

今では幻の魚とも言われる魚、エツ。最盛期には100トン近く獲っていましたが今では9トン余り。福岡県ではエツの漁獲高確保のために、稚魚の放流事業への支援などに取り組んでいます。



*筑後川のエツ漁は5月1日～7月20日

そんなエツ漁は、筑後川の初夏の風物詩としてなじみ深く、毎年5月1日に解禁されます。エツはカタクチイワシ科の魚で、日本では筑後川下流域しか生息しない川魚です。さっぱりとした味わいで、日本三大酒処の一つ、城島の冷酒との相性は抜群です。しかし短期間しか味わえないエツを活かした観光振興にはPRが不足しています。

そして何よりも冒頭にご紹介したようにエツの生息数も心配です。

矛盾する2つの課題に向き合います。

県政報告



月刊えぐち
2024春
vol.4



福岡県議会議員 江口よしあき
自民党福岡県議団

発行／江口よしあき事務所
〒830-0062 久留米市荒木町白口2324-3
古賀第2ビル103号
TEL 0942-26-3324 FAX 0942-26-3382
Mail:office@eguchi.ne.jp

江口よしあきプロフィール

1974年 久留米市荒木町に生まれる
1980年 久留米市立荒木保育園を卒園
1986年 久留米市立荒木小学校を卒業
1989年 福岡教育大学附属久留米中学校を卒業
1992年 松尾学園弘学館高等学校を卒業
1997年 早稲田大学社会科学部を卒業
同年 九州朝日放送（KBC）に入社
2003年 久留米市議会議員に初当選（連続2期）
2011年 福岡県議会議員に初当選
現在 在県議4期目

■令和6年・福岡県議会日程（予定）

6月定例会 6月6日（木）～6月24日（月）

■傍聴について

県議会の会議は公開を原則としていますので、会議中はいつも傍聴でき、傍聴を希望される方に傍聴券を交付しています。
最新及び詳細は福岡県議会ホームページで。

月刊えぐち VOL. 4

2024年

大阪万博と福岡県の関わりについて

2025年日本国際博覧会（通称 大阪・関西万博）は2025年4月13日から184日間、大阪市で開催されます。様々な要因により予算が大幅に膨れ上がり開催自体に批判の声もありますが、国の威信をかけた催しであり、開催する以上は成功を収めないと想います。

以下は万博開催の機運醸成のため福岡で行われたシンポジウムのチラシです。



今回はコロナ禍を終えて初めてとなる万博で、「ポストコロナ時代の社会像」を提示する場となります。

万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。ワンヘルスの理念と極めて親和性が高いと思います。



（シンポジウムの模様）

万博の機会をとらえ福岡県のワンヘルスへの取り組みやその必要性を世界に向けて発信し、世界での「ワンヘルス」の推進に貢献したいと思います。

ワンヘルスの基本方針（6つの課題）

- ①人獣共通感染症対策
- ②薬剤耐性菌対策
- ③環境保護
- ④人と動物の共生社会づくり
- ⑤健康づくり
- ⑥環境と人と動物のより良い関係づくり

学びの多様化学校①

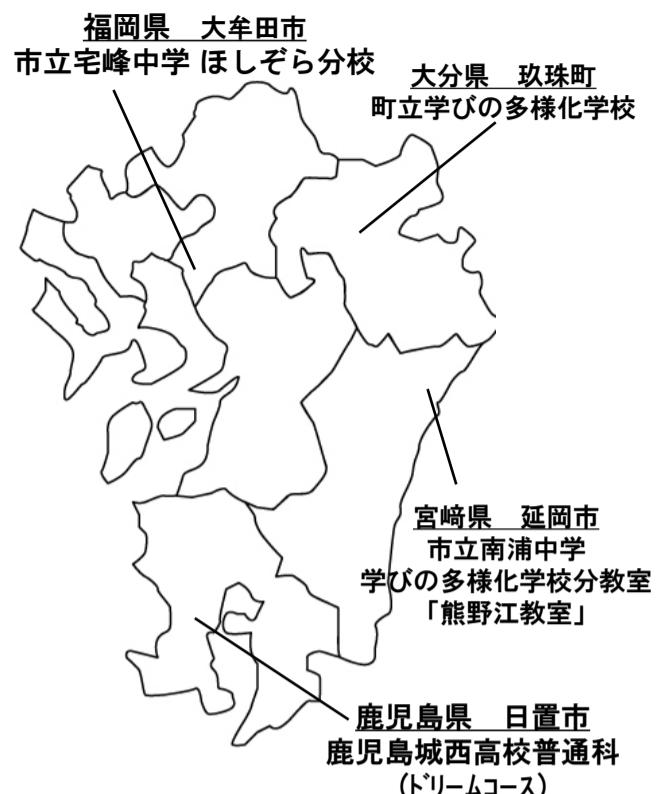
福岡県は、不登校の生徒に配慮したカリキュラムで学べる「学びの多様化学校（不登校特例校）」を県立高校内に設置します。新年度予算案に約1225万円を計上。2025年度に開設予定で、県立高校への設置は全国初となります。

福岡県には今年4月、大牟田市に病気・不登校などの理由で義務教育を受けられなかった人や外国籍の人のための市立夜間中学が開校しました。



「誰一人取り残さない」多様な学びの機会を保障する大牟田市立の夜間中学
(大牟田市のホームページより)

近年、急増する不登校生徒に対する取り組みで時代の要請でもあります。このため、国は全国に300校の設置を目指しています。福岡県の中学校生徒数14万人に対して不登校生徒数は9,500人です。

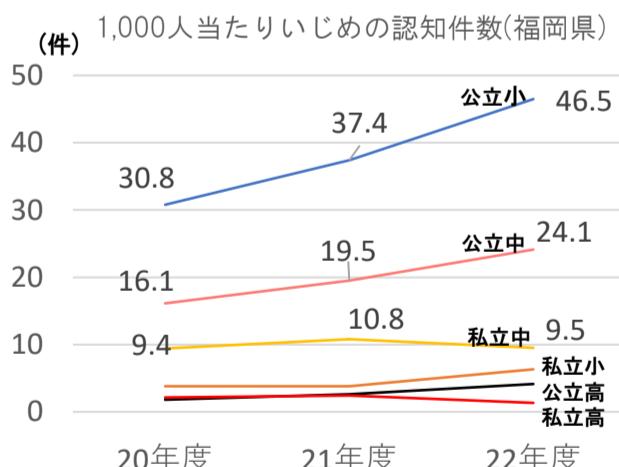
学びの多様化学校の設置状況
(全国35校 うち九州4校)

長期欠席者は病気やいわゆる不登校が多くを占めますが、最近では、新型コロナウイルス感染回避や少数ではありますが経済的な理由もあります。

この中で不登校に注目するといじめの認知件数などの実態が見えてきます。

学びの多様化学校②

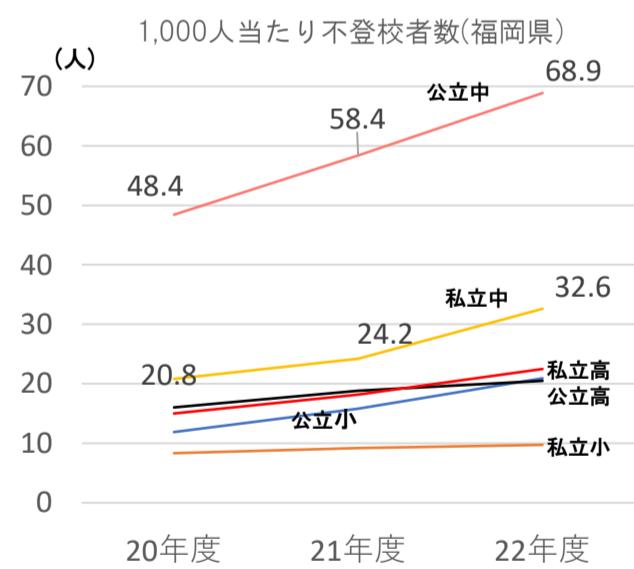
2022年度1,000人当たりの福岡県内のいじめの認知件数と不登校者数です。



県立や私立の小学校から高校までを比較してみるといじめが不登校へつながる課題が見えてきます。今回の「県立高校への設置は全国初」というのはむしろ遅きに失した感があります。

県によりますと、学びの多様化学校は学習指導要領に従うことなく、独自の科目を設定したりとかなり弾力的です。

個人が自らの進路を体験的に見つける可能性が高まるることを期待しています。



今回は県立高校内に1校だけ設置することから、出来る限り広い範囲からの通学が可能となるよう、交通の便の良いところが選ばれます。

実務的には設置される既存の生徒と活動エリアや動線を分けること。逆に交流の機会の設定など課題はあります。

役所が、あまりに大上段に振りかぶり過ぎて結局は新たな不登校問題が生まれないかということが心配です。